

Wタイプ継手

Wタイプ継手は架橋ポリエチレン管専用です。ポリブテン管には使用できません。



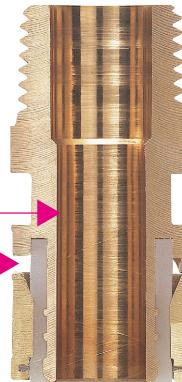
拡径して圧入、安心・確実な継手です。

Wタイプ継手



▶ パッキン、Oリングは使用しません。

パッキン、Oリングの劣化や傷による漏水の心配が無い為、長期に渡っても信頼性が高い継手です。

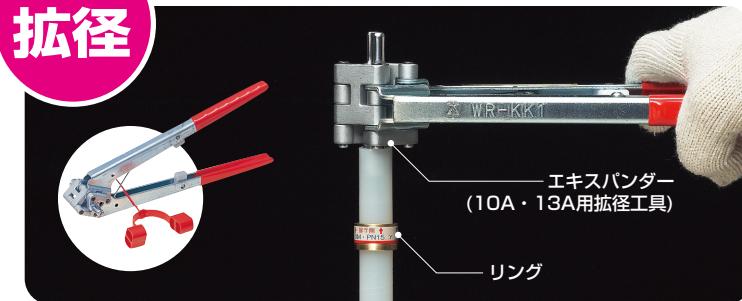


●管の内径を拡げるから継手の内径が広くなり、水の流量面積が増え、流れがよりスマーズになりました。
●施工中はもちろん、施工後でも架橋ポリエチレン管の差し込みが目視できる確認窓付です。

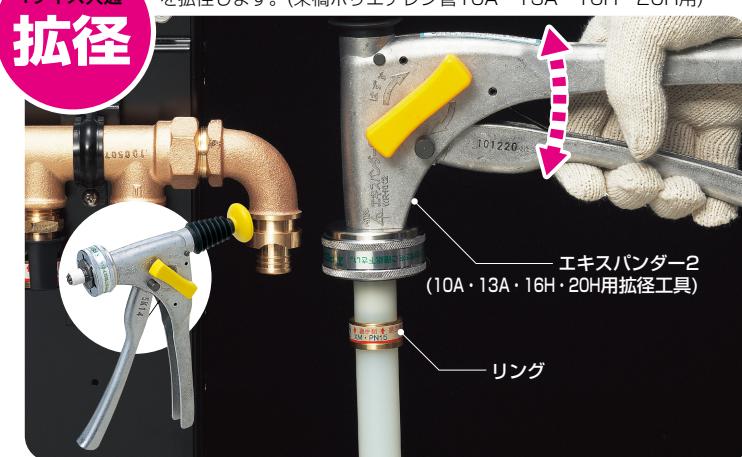
●圧入による堅牢な固定、広い面積でシッカリ管を挟み込みます。
●リングは、拡径作業時に架橋ポリエチレン管を滑り落ちません。

10A・13A用
拡径

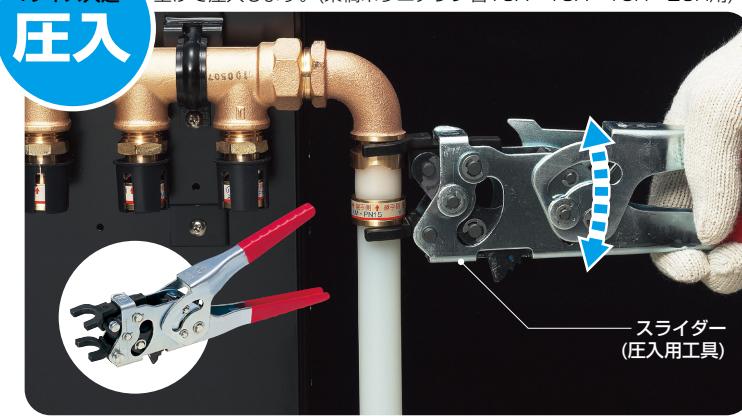
リングを架橋ポリエチレン管に通し、エキスパンダーを使用して管端を拡径します。(架橋ポリエチレン管10A・13A用)

4サイズ共通
拡径

リングを架橋ポリエチレン管に通し、エキスパンダー2を使用して管端を拡径します。(架橋ポリエチレン管10A・13A・16H・20H用)

※1
4サイズ共通
圧入

拡径した管端をWタイプ継手本体に差し込み、スライダーでリングを押し上げて圧入します。(架橋ポリエチレン管10A・13A・16H・20H用)



※1. スライダーは10A・13A用クランプ付き。16H・20Hの圧入には各々別売の専用クランプが必要です。

エキスパンダー・スライダーは716・717頁へ

▶ ズレ落ち防止



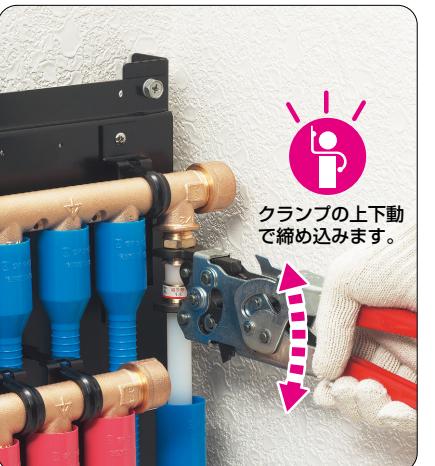
拡径、圧入作業時に滑り落ちません。

▶ 目視確認窓付



接続チェックが目視で確認できます。

▶ 狹所でも作業が簡単



クランプの上下動で締め込みます。

リングは架橋ポリエチレン管の任意の位置に止められます。拡径作業時に架橋ポリエチレン管を垂直に立ててもリングは下に滑り落ちません。

確認窓で施工中の架橋ポリエチレン管の差し込み量、施工後の接続完了チェックが目視で確認できます。確認窓から架橋ポリエチレン管が見えれば接続OKです。

圧入用工具はクランプの上下動で締め込みます。パイプレンチのように回して締め込んでいく必要がないため、ヘッダー設置箇所等の狭所や隅角でも工具を握るスペースがあれば接続作業が行えます。

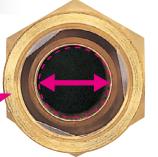
▶ 流路面積大幅アップ

架橋ポリエチレン管を拡径するため、継手の内径を拡くことができ、水の流路面積を従来より大幅に増やすことができました。

流路面積の
従来比 サイズ10A サイズ13A サイズ16H サイズ20H
200% 160% 135% 130%



従来継手
↓
Wタイプ

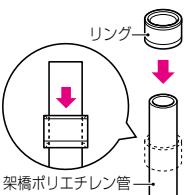


圧力損失が減少、水の流れがよりスムーズになりました。

継手種類	流路面積 (内径)			
	10A	13A	16H	20H
従来継手	28.27mm ² (ϕ 6.0mm)	63.62mm ² (ϕ 9.0mm)	132.73mm ² (ϕ 13.0mm)	226.98mm ² (ϕ 17.0mm)
Wタイプ継手 (銅製)	56.75mm ² (ϕ 8.5mm)	103.87mm ² (ϕ 11.5mm)	181.46mm ² (ϕ 15.2mm)	298.65mm ² (ϕ 19.5mm)

■ Wタイプ継手の接続方法

1. リングの取り付け

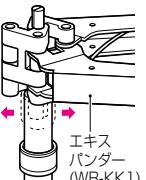


架橋ポリエチレン管に、スリ傷、切り傷等の無いことを確認後、管軸方向に対し直角に切断し、リングを通しておきます。

*リングには方向性があります。向きを間違えないようご注意ください。

2. 管の拡径

10・13用

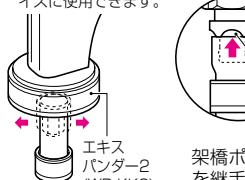


エキスパンダー(2)で架橋ポリエチレン管の管端をゆっくり拡径します。

*エキスパンダー(10・13用)を使用する場合は、管端部の拡径位置をスラッシュながら、架橋ポリエチレン管を均一に拡げてください。

3. 管の挿入

継手本体



4. リングの圧入

スライダーのクランプで継手本体とリングを挟み、リングが継手本体に当たるまでスライダーで押し上げ圧入します。

*施工後、確認窓から架橋ポリエチレン管が見えることを確認してください。

*管端を確認窓の中程まで差し込んでください。

*架橋ポリエチレン管の拡径はゆっくり行ってください。

*1回目の拡径や気温が低い場合(5℃以下)は特に注意が必要です。

架橋ポリエチレン管に傷が付くと水漏れの原因となります。

*架橋ポリエチレン管の取り付けは確実に行ってください。

*差し込み不足・圧入不足は水漏れの原因となります。

注意

- 架橋ポリエチレン管の拡径はゆっくり行ってください。
- *1回目の拡径や気温が低い場合(5℃以下)は特に注意が必要です。
- 架橋ポリエチレン管に傷が付くと水漏れの原因となります。
- *架橋ポリエチレン管の取り付けは確実に行ってください。
- *差し込み不足・圧入不足は水漏れの原因となります。